



全農教

日本帰化植物友の会通信



NO.2 [2003年2月5日 発行]

帰化植物友の会への期待

森田 弘彦

世の中には大きく分けて、植物に関心を持つ人々とそうでない人々が存在します。植物に関心を持つ人は、朝に晩に、野原、川岸、路傍に生える植物に目をやりますが、その中にこれまで知らなかった植物を見つけだすと、さあ大変、その正体、名前がわかるまで実に落ち着いた時間を過ごすこととなります。「自分に向かって名乗らない植物」があってよいはずはありません。時には、新顔の植物が気になって夜の寝つきの悪いことさえあります。こういった現象は、植物好きに限らず、昆虫愛好家やバード・ウォッチャーにも共通しているようです。夜も寝られなくなるほど気になる、名前の不明な植物は、人里離れた深山でなら「すわ、新種か!」ということもあるでしょうが、人間生活の場である都市や農村ではまず、「どこから入り込んだものだろう」ということとなります。ここからは、安眠を得るために植物図鑑や植物ガイドブックをひっくり返して、何とか名前を知ろうとするわけですが、なかなかうまくは行きません。帰化植物の情報をまとめて記録してくださった先達の業績を拝見するたびにその恩恵に感謝し、ご苦勞を偲ぶのはこうした背景を考えるからです。

さて、故奥山春季先生が始められた「植物採集ニュース(1962年5月~1978年11月)」と「レポート日本の植物(1979年9月~1992年12月)」はまさにこうした植物好きに安眠をもたらすものでした。「植物採集ニュース」の第1号に奥山先生が寄せられた以下の「発刊のあいさつ」は今も新鮮で、「帰化植物友の会」の趣旨と全く一致するものと思います。

『ドーランをさげて、ひまがあれば山野を歩き廻り自然を楽しむ同好の士が最近目立って多くなりました。こうした方々のお互いの知識の交換となり、また採集の目標となるニュースを主にしたパンフレットがあれば楽しさが倍加するであろうと日頃考えておりました。この度採集会などで顔なじみになった同好の一部の方から何か印刷物を持ちたいという声がおこり、具体案を持ち寄って“植物採集ニュース”第1号として姿を見せることになりました。みんなで持ちよったニュー

ス、即ち採集に出られたおり、何が満開であった、何の大木があった、某地で採集した種子をまいたら何年目に花をつけたとか、庭の花が何月何日花開き、何月何日真赤に熟したといったいろいろな身近な話題を全国各地から報告していただき、早急にこれを印刷して皆様に配布するといった行き方です。

また一面、日本はせまいようでもまだまだ採集家が入っていない山や谷がたくさんあります。将来完成されるであろう詳細な分布図に私達の足で一点を獲得し学問にも貢献しようではありませんか。楽しみながら学界に貢献できるのが採集家だけに与えられた特権なのです。

このパンフレットが全国の同好の皆様との横の連絡の役割を果たし、また新聞や雑誌、TVなどにとりあげられたニュースを補足解説したり、新発見などにまつわる裏話などもとりあげ読み物としても楽しいものにしてほしい考えです。まだうぶ声をあげただけなので一人前に育つには一人でも多くの皆様の協力が必要です。どうか自分達で育てるパンフレットとして遠慮なく気軽に活用して下さる様希望致します。第1号の巻頭に一言挨拶させていただきます。(奥山春季)』

胸乱がほとんど使われなくなったことと、インターネットが普及したことが奥山先生の時代と変わった点でしょうが、各地での植物同好会などの活発な活動を見るにつけても、植物好きの間での情報交換が必要なことには変わりありません。

「帰化植物友の会」の発足は、植物の名前がわからないために寝不足になる人をきっと減らしてくれるに違いないと思いますが、その活動を通じて、こうした探究心、科学する楽しみを次世代に確実に伝えることにも意を注いで欲しいと思います。

「友の会」に関連して2002年1月に発足したパソコン通信での「帰化植物メーリングリスト」は、2003年1月現在で参加者約340名で活発な情報交換をしています。本メーリングリストもまた、奥山先生の思いを基礎にさらに飛躍したいものです。

(福岡県久留米市)

ギシギシ属 (*Rumex* L.) の種は世界に約 200 種確認されており、その内の 1 種であるカギミギシギシ (*Rumex brownii* Campd.) は、オーストラリアに分布する多年草である^①。

1999 年 7 月 6 日、福岡市東区城浜団地でアレチギシギシ (*Rumex conglomeratus* Murr.) に似ているものの、茎の上部に花がやや離れて輪生していてその基部に葉が全くついていない植物を採集した。持ち帰って調べたところ、花被内片の縁に釣り針のような突起が見られたので、『原色日本帰化植物図鑑』(2)に記載されているカギミギシギシではないかと思った。7 月 15 日に再度現地に行き、採集したものと同じと思われる種の写真撮影を行った。そして、大宰府市在住の長田武正博士に写真を同封して同定をお願いした。長田博士は年配でいらっしゃるが数年前から同定を断っておられたにもかかわらず、有り難いことに見ず知らずのわたしに「写真を見るからにカギミギシギシに相違ない」との所見を載せてくださった手紙と、『日本帰化植物図鑑』(北隆館)のヒョウタンギシギシとカギミギシギシが掲載されているページの複写を送って下さった。その後、倉敷市立自然史博物館の狩山俊悟先生が、わざわざ最近の地方植物誌を調べて下さり、カギミギシギシが三重県内に生育していることや、平凡社が『日本の帰化植物』を出版準備中で、清水建美金沢大学名誉教授が帰化植物の分布情報を集めていることを教えて下さった。そして清水先生に標本の同定を依頼し標本を送ることを勧めて下さった。幸いにも清水先生がご多忙にもかかわらず快諾して下さい、国立科学博物館に標本を送付して同定をお願いした。10 月中旬に、



カギミギシギシ (右) とアレチギシギシ (左)
(1999 年 7 月 15 日撮影)

● ハナハマセンブリを発見

渡 谷 良 子

先日書店でふと「日本帰化植物写真図鑑」を目にして求めました。次々と増える帰化植物を知りたくても、あまりそれをとりあげている図鑑を知らなくて、良いのがあればと以前から捜していました。

同じ市内で今は転居してしまいましたが、去年まで淀川の近くに住んでいて犬の散歩で日常的に河川敷に出かけていました。カンサイタンポポやミゾコウジュ、サンカクイやたまにはタコノアシ、ミズアオイなどを見かけ

清水先生より「カギミギシギシ」との同定の結果と、写真と共に標本室に保管して下さい、さらに「帰化植物を採集されたら標本を国立科学博物館宛てに送って下さい」との有り難いお返事を頂いた。本種は、『福岡県植物目録』(中島一男著)、『福岡植物誌』(福岡県高等学校生物研究部会編)、『福岡県植物目録』第 2 巻(福岡植物研究会編)いずれにも未記載の種であったので、ここに報告する。

清水先生からの同定の結果を頂く前であったが、1999 年 8 月 6 日に城浜団地内で本種の株数を調べた。その際には、花被の形をもとに他のギシギシ属の種と区別した。その結果、城浜団地 5 棟付近の道路際などに 72 株生育していることがわかった。また城浜団地 5 棟のベランダ下に 40 株がやや密に生育しており、計 112 株が確認された。しかし、同年 10 月にはイネ科の植物らに取って代わられていた。その後 2000 年 6 月 22 日に再度現地に行くと、すでに 24 株が花をつけていた。他にもカギミギシギシのものではないかと思われた株が昨年と同じ場所で見られたが特に分布域を拡大しているようには思われなかった。

カギミギシギシは羊毛工場の敷地内で生育していることが過去に確認されており^②、ベランダ下で密に見られたことから、羊毛の布団等に付着した種子が発芽して広がったものではないかと思われる。しかし、砂利の間や道路際にのみ多く見られたことから、他種との競合には弱いのではないかと感じられた。今回の福岡でのカギミギシギシの「帰化」が長田先生によるところの「一次帰化」に終わるかどうかは今後継続して個体数や分布域の調査を行ったうえで判断する必要があると考えられる。

本報告におきましては、九州大学農学部附属演習林の井上晋先生、長田武正先生、狩山俊悟先生、清水建美先生より貴重な情報とご厚意を賜りました。また、福岡植物研究会の筒井貞雄先生からは標本ラベル作成・使用や標本の扱いなどに関して再三にわたりお手紙を頂いて懇切なご教示を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。

(福岡県福岡市東区)

引用文献：(1)世界の雑草—離弁花類—

竹松哲夫・一前宣正著 全国農村教育協会

(2)原色日本帰化植物図鑑 長田武正著 保育社

(福岡植物研究会報より転載)

る所ではあるのですが、外来種がとても多く、それを知りたいな、と思っていました。トゲミノキツネノボタンに初めて気付いたのは 93 年の 4 月、次第に増えて今では 4 月の末頃、ムラサキサギゴケの紫とトゲミノキツネノボタンの黄のみごとな花のジュータンが現れます。他、セイヨウヒキヨモギ 93 年、カラクサケマン 98 年など、他では見たことのないものも生育しており、もっとしっかりと捜せばおもしろいものがあると思いますが、98



ハナハマセンブリの花期

年6月に初めて気付いたピンクの花の咲く小さな草を本で調べても人にたずねてもわからず、気になっていました。

以前にスイスで買った THE ALPINE FLOWERS OF BRITAIN AND EUROPE の中の *Centaureum erythraea* か *C.pulchellum* かな、と見当をつけていました。ロゼット葉があるようにも見え、ないようにも見え、中の説明で *C.pulchellum* は「特に海近くに生育する」

● 休耕田に広がるウキアゼナ

岡本 政 巳

最近、水田の部分休耕田（1枚の水田の一部を休耕田にすること）に帰化植物のウキアゼナ (*Bacopa rotundifolia* Wettst.) が増えて、除草剤を散布しても防除できなくて困っています。何かいい防除法はないでしょうか。

この水田の栽培及び除草剤散布は次のとおりです。

6月20日に田植（私のところは米、麦の2毛作で麦刈取後に田植するのでこの時期になる）。

6月25日に休耕田を含め3,000m²全面に除草剤「クサトリエース L ジャンボ剤」（除草剤の商品名）を30包投入。

この後何日かしてウキアゼナが発生し始めたので、7月末から8月初旬の中干し時期をねらって8月4日（晴）に除草剤プリグロックスL、50倍液を散布、この時はウキアゼナは長さ15cm位で花が咲いていた。翌日葉が褐色化した。8月6日に再び水田に水を入れた。その後また、再びウキアゼナが発生し、生長して休耕田全面に繁茂したので仕方なく手でむしって取った。近所ではトラクターでロータリーをかけている人も見かけたが、ロータリーをかけた後はきれいに見えたが、しばらくするとまた一面にウキアゼナが生えてきました。しかし、1枚の水田でも水稻が植えてある処にはウキアゼナは全く見当たらず、休耕した部分だけに繁茂しました。

このウキアゼナの防除法を教えてください。

（群馬県前橋市）

● 編集部より……

ウキアゼナは1年草草本ですから、秋には枯れて、種子が水田中に残って翌年春に種子から発生してきます。

との説明から *C.erythraea* かな、と思っていました。でも今回、ハナハマセンブリだということがわかりました。ありがとうございました。

もう以前のように日常的には河川敷には行きませんが、でもふと目にする見かけない植物はとても心が引かれます。この本を参考にして、また、それでもわからない物はおたずねしたいと思っております。その時はどうかよろしくお願いたします。

● セイヨウフウチョウソウですが、庭で育てたとき、モンシロチョウの幼虫に葉を食べられ成虫になりましたが、花の形態からはとても同じ種とは思えないけれど、マメ科にはまるで違う形の花を咲かせるのもあるのだから、これはアブラナ科なのかな、なんて一人合点しておりました。それがフウチョウソウ科となっております。そうですね。あまりに違いすぎます。でもなぜアブラナ科に付いて史前帰化したと言われているモンシロチョウがそれを食べて成虫にまで育ったのか、もしおわかりならば教えて下さればとても嬉しいです。

（大阪府高槻市）



ウキアゼナ（果実をつけたもの）

一般的にアゼナなどと同じように、岡本様のご使用になった「クサトリエース L ジャンボ剤」「プリグロックス L」で効果がある筈ですが、お便りのように後日発生したとすると、除草剤の効力が弱くなった頃に発生するのだら発生する性質を持っている可能性があります。

ウキアゼナは最近になってぼつぼつ問題になってきた雑草で、まだ、研究は進んでいないようです。

お便りを頂いた昨年（10月21日）、岡本さんの水田付近を歩いてみました。確かに休耕した水田にはウキアゼナが一面に見られました。晩秋にもかかわらず花が咲き、おびただしい果実が熟していました。恐らく1株から数千粒の種子ができるものと推察されます。これが翌年だらだと発生するとしたら、夏の間次から次と発生するのではないかと想像しました。帰化植物が農業に及ぼす被害が大きいことの一つの事例として認識しました。（全農教 広田伸七）

久しぶりに通りかかった高槻市芥川の川原の中に、見たこともない白い花が咲いていました。遠くからはヒメジョオンかなとも思いましたが、やっぱり違います。『日本帰化植物写真図鑑』で調べてもありません。切り抜きにはないかなと調べてみると、02年7月12日の朝日の夕刊に愛知県豊橋市と高槻市の河川沿いに広がっていると記されていました。下流の淀川に入り込むのも時間の問題か、と大阪市立自然史博物館員の話も書かれて

いました。(写真はカラー頁に掲載してあります)

淀川まで3kmほどの上流の所ですので本体は見かけませんが、もう種は流れて行っているのではないのでしょうか。アサギマダラやヒョウモンチョウなどチョウがたくさん群れていました。通り合わせた人に聞いてみると6月頃から咲いているよ。3~4年ぐらい前から見かけているように思うということでした。

(大阪府高槻市)

● メーリングリストからの抜粋

「帰化植物友の会」に関連して2002年1月から農林水産計算センター森田弘彦氏を管理者として発足したパソコン通信での「帰化植物メーリングリスト」は、2003年1月現在で参加者約340名で昨年は650余件の情報交換を行っています。このうち200件目までの情報は参加者の皆様から友の会通信に転載することの了解が得られましたので、一般的なものから編集部が選んで以下に抜粋いたしました。

メーリングリストに参加されている方々には重複しますが、友の会会員は2003年1月現在920余名でメーリングリストに参加されていない会員が約600名と、2倍もの多くの方がおられますので十分ニュースになりますので転載しました。

メーリングリストの201件目以降の情報も皆様に了解をいただいて友の会通信に順次転載していく予定であります。(編集部)

■ ヌマツルギクについて

●全農教の帰化植物写真図鑑のヌマツルギクについてです。この本の説明では「頭花は10箇前後の舌状花で晩秋に咲く……」とありますが、私は5年間にわたり鎌倉市で実物を見ていますので報告します。

1994年に鎌倉市内の友人の庭にてヌマツルギクを見ました。ヌマツルギクは国内では1961年に福岡市の湿地での報告が初めてで、鎌倉には、福岡から「東風ふかば……」のように飛んで来る訳がなく「これは誰かが持ち込んだな」となり私が追跡調査をしました。そして千葉大の花卉園芸学担当の浅山英一先生が、65才で定年退職したあと、メキシコ旅行をされた折りアカブルコの道端でヌマツルギクの種子を採り帰国したあと、学部の生徒さんとか、千葉・神奈川の多くの人に配られたようでした。それがあちこちに散らばったようです。私が先生から直接に聞きましたので間違いありません。ヌマツルギクの花期は、長田先生の本でも晩秋から初冬とあり、多くの方々の標本も11月から12月でしたが、鎌倉では真夏のほうが成長期で花も沢山咲いていました。これはなぜでしょうか……。先輩の浅井康宏先生にお伺いをしましたら「現地では開花は6~10月」とご返事を頂きました。日本でも夏咲きが本当のようです。また鎌倉では舌状花は3枚からあります。

(神奈川県鎌倉市・奥津均)

●福岡県で農業関係の仕事をしています。「ヌマツルギク」の名を聞いて投稿しました。私が籍を置く職場は福岡県行橋市で奥津様書かれたヌマツルギクの最初の報告地「福岡県北部の水田……」の地域なのです。5年ほど前農業改良普及員の方から「みっちゃんこれなに？」と、一件メランポジウムのような花の咲く雑草を持ち込まれたとき、即答できなかつたことが今でも忘れられません。昨年度からヌマツルギク激発地帯で水稻の定期

的な調査のため、月2回は必ず圃場を見て回りますが、やっぱり現地では咲き出すのは9月の終わりくらいから。最盛期は水稻が刈り取られてからです。10月から11月にかけて、きれいに基盤整備された水田ののり面のほか、コンバインによってばらまかれた稲わらを突き抜けて圃場一面に咲き乱れるのが観察されます。8月の時点では、まさに栄養成長の真っ最中。蕾すら確認することができません。そうすると、本州方面のものとは根本的に系統が違うのか、単に生育条件が違うだけなのか、おもしろい問題ですね。また、種子についてですが、同一トラクターを使っているとおぼしき圃場に集中的に激発していることから、主に栄養繁殖で増殖していると思われますが、「それじゃあ種子での繁殖はいかほど？」という疑問がわき、100頭花ほど採取してきて種子を探しましたが、一見健全に見える種子は4粒だけでした。全部「しいな」のようでした。(福岡県行橋市・道谷栄司)

●ヌマツルギクについての情報です。「神奈川県植物誌



ヌマツルギクの花期

2001」では九州のヌマツルギクについて「筑後川流域」とありますが (p.1408), これは「福岡市とその周辺」が正確なところだと思います。「神奈川県植物誌 2001」でも、福岡のものと神奈川のものの検討の余地があることを書いていますが、福岡の道谷さんがおっしゃっているように系統が異なるのかもしれませんが。私がヌマツルギクを初めて採集したのは筑紫野市八反田の水田畦畔で、1992年11月1日で開花中でした。ほふく性で畦畔を覆うように生育していたため、「これはひょっとして畦畔のカバー・クロップになるのではないかと期待したものです。ところがその後、福岡県農業総合試験場(筑紫野市)の実験用水田の中に生えているのを見つけ、「水田の雑草になるかもしれないので、畦畔カバー・クロップは無理か。」と考え直したものです。その心配があたって、1998年頃から、福岡県の豊前地方で水田に入りだして問題になりました。道谷さんの記事にあるとおりですが、当時、福岡県農業総合試験場豊前分場(行橋市)におられた尾形武文氏が同地方水田でのヌマツルギクの生態と防除に関する研究に取りかかり、その結果を「植調 34-5 2000, p.169-174」に書いています。私は、つくばから尾形氏を訪問してその様子を伺い、「水田での増殖が茎の切片によっているのか、種子によっているのかを調べてください。」とお願いしました。道谷さんの記事と同様、尾形氏も「種子形成による繁殖が確認されていない」としています。長田先生も保育社図鑑では子房の形態までで、そう果については触れられていません。従って、奥津さんの「種で増やした」というので驚いた次第です。(福岡県久留米市・森田弘彦)

●奥津がヌマツルギクの所見を出した所、全国の皆さんよりコメントを頂きました。これこそ ML の良い例です。私なりに今までを整理して順序たてて記すならば、鎌倉市の深沢村に友人が広い庭と共に住んでいて、ヌマツルギクが夏も冬も咲いていたこと。追跡調査が私 がしまして、千葉大の浅山先生がメキシコ旅行の際、持ち帰ったこと。先生は私に対して、*Spilanthes americana* と言いました。それを帰国後、皆さんにお土産として配り、それを貰った生徒さんが鎌倉の大町の家を持ち帰りまして、その苗が親戚の鎌倉市深沢村の庭に来まして両家とも健在。先生が配ったことを補足するように、近畿植物同好会の植村修二さんが、「私も浅山先生の自宅を訪ねた際、直接苗を頂き、現在も自宅で栽培、夏から晩秋まで開花している」むね、報告がありました。さて、夏に咲く件ですが私は次のように解釈しております。このヌマツルギクは地面を覆うように、根というか茎の部分は太く四季にわたり「充実した状態」とみえます。充実していれば、いつ花が咲いても自然ではないでしょうか。道谷栄司さんが「8月はまさに栄養成長の真っ最中」とコメントされています。この時期は茎がばらばらに切断されていたのが「挿し木」の状態ではなかろうかと考えています。この草は多年草ですから、1年間の間、刈り取らないで育てたら夏も咲くのではないのでしょうか。(神奈川県鎌倉市・奥津均)

●ヌマツルギクについての奥津さんの見解ですが、前回の投稿で一言ふれたとおり、私もこの可能性は充分ある

と思います。畦畔やのり面などに覆い尽くしているものも、こまめな草刈りでせっかくの花芽をとばしていることが考えられます。農作業が一段落し、ようやく咲かせる環境が整っても気温が下がっているため種子が実らないことも説明がつきます。ただ、何ヘクターにも及ぶ優占雑草が農耕による人の営みだけで種子を全く付けることができないなどちょっと考えにくいように思われます。特にのり面に一面に張り付いている蔓を1本残らず刈り取るのは不可能ですし、そもそも農作業する人の立場に立てば地面に張り付いて生育する草をわざわざ丁寧刈りにすることに意味を持つことはないでしょう(難防除雑草という割に農協の営農指導員さんもそんな植物が存在することを知りませんでした)。この辺についてはそこまで詳しく観察してきたわけではないので何ともいえません。ただ言えることは、「短日性がないとしたら確実にどこかで咲いているはず」と言うことだけです。

そこで今年は観察のネタを提供していただいた奥津さんに感謝しつつ、「根本的に系統が違うのか、単に生育条件が違うだけなのか」をはっきりさせるため、新たな自分のフィールドとしてその辺を観察してみたいと思います。(福岡県行橋市・道谷栄司)

■アツミゲシについて

●最近私の住む豊前地域で広範囲にわたってしかも比較的普通にアツミゲシが見られるようになりました。10年ほど前には保健所の車が八重の園芸種いわゆる「ガーデンポピー」を満載して駆除して回っていたものですが、今ではそちらもたまに庭先で見かけます。福岡県や北九州市の保健所が手が回らなくなってきただけなのでしょう。他の地域の情報が気になります。

(福岡県行橋市・道谷栄司)

●図鑑でしか知らなかった、アツミゲシの実物を見たのは今から15年ほど前、香川県坂出市に住んでいたときです。官舎や職場付近の公園、空地等計7~8カ所で見つけました。栽培禁止であることは、帰化植物図鑑等で周知しており、当時、坂出保健所に通報し、2カ所は実際に保健所の職員を案内しました。内1カ所では抜き取られた株は、大小合わせ5000株で保健所の職員も驚かれました。翌年は、丸亀市内の空地で大発生しており、丸亀の保健所に通報しました。しかしながら、最初に應對してくれた担当者は、実物を持参し説明してもその存在を認めようともしませんでした。別の方が出てこれ、



アツミゲシの花期

私の説明に納得したらしく抜き取るとの確約が得られました。後日確認に行ったところ、きれいに除草されていました。坂出も丸亀の保健所も私が通報したことが担当者になり、ありがた迷惑がられた感覚を受けました。1991年から兵庫県伊丹市に引っ越し、神戸から阪神間にかけて帰化植物を調べている中、現在までにアツミゲシの生育を10カ所程度見つけています。アツミゲシの記録は所属の同好会へ阪神帰化植物情報として他の帰化植物と一緒に現在も連載で報告しています。1995年から神戸市内へ勤務することになり、職場近くのメリケンパーク公園でアツミゲシを見つけ、私の職場と同じビルにある麻薬取締官事務所神戸事務所へ通報しました。その後も阪神間で見つけたものは当事務所にお知らせし、顔見知りになりました。担当の方の話によると栽培することはもちろんのこと、さく葉標本として保持することも良くない。持っていることが判れば、取り調べを受けるとのことで、誤解を招くような事はしないほうがよいと教えていただきました。私も最小限証拠標本として採集しますが、採集したものは大学の標本庫へ寄贈しています。以前、京都大学農学部雑草学研究室にいったおり、助手の先生の話によると、生徒が宝塚市内でアツミゲシを採集してきて、警察に連絡したところ取り調べを受けるなど、えらいめにあったと聞かされました。1999年から、関西空港の方へ仕事場が換わり、神戸の麻薬取締官事務所から遠くなり、その後見つけたものは、所管の警察署へ通報しています。神戸市灘区では、警察官派出所の敷地の隣で3株程度生育しており、当該派出所の警察官に連絡するため派出所に入ったところ、掲示板に、けし大麻撲滅月間の啓蒙用ポスターが掲示されており、おかしいやら情けないならでした。一昨年は宝塚市内の比較的大きい墓地で大発生しており、宝塚警察署にお知らせしました。一回の除草では根絶できなく、昨年も同一墓地で大発生していました。昨年伊丹市では、道路の交差点内に作られた花壇に他の草花と一緒に生育していました。花がきれいな事から、除草を免れ生育していたものと思いました。これはひとつの生き残り戦略か。兵庫県の場合、麻薬取締官事務所や保健所、警察に通報があったものは、県の薬務課へ情報が集められると聞きました。薬務課には専門の方がおられるそうです。3月初めではアツミゲシは、まだ花は見られないと思います。今の時期は若干ノゲシのロゼット状のものに似ています。大変きれいな放射状のロゼットで、葉の切れ込みの谷間は5ミリ程度白い窓があり、なれた目には間違ふことはないように思われます。今年もまた、アツミゲシを見つけ気まぐれに警察、保健所等に通報、担当の方がどんな対応、顔をやるかなど、ふしだらな考えをいただいています。

(兵庫県伊丹市・水田光雄)

■ ツキミマンテマとハリゲナタネ

●ツキミマンテマ（新称予定）*Silene nocturna* L.とハリゲナタネ（新称予定）*Brassica tournefortii* Gouanについて調べています。この2種はすでに日本各地に帰化していると思われるので、情報がありましたらよろしくをお願いします。

1. ツキミマンテマ *Silene nocturna* L.

昨日4月6日、少しだけ時間がありましたので、東京都江東区の新木場駅付近を30分ほど見て回りました。その際、新木場1丁目13-4付近で3株ほど、ツキミマンテマを見つけました。この植物はシロバナマンテマなどと誤認されていることが多いと思いますが、株が直立しがちであること、花が夜咲きであること、花卉の先がくぼむことで区別できます。神戸のほか岡山県水島市でも見ており、かなり乾燥に強く、今後、全国に急速に分布拡大する可能性が高いものです。

2. ハリゲナタネ *Brassica tournefortii* Gouan

全農教の日本帰化植物写真図鑑にキバナズシロモドキとしてカラー写真にでている植物がこれにあたります。私は神戸港のほか、横浜、清水、大阪、岡山、香川の港湾地域でたくさん見えています。本物のキバナズシロモドキ *Coinceya monensis* (L.) Greuter & Burdet は私はまだ見たことがありませんが、ナノハナのような黄色い花をつける植物のようです。ハリゲナタネ *Brassica tournefortii* Gouan はキャベツやハボタンのような薄いクリーム色の花で、葉にはさわると痛いくらいの毛が生えています。ロゼット葉はダイコンに似ています。この2種が混同されている理由はキバナズシロモドキと同属？で、薄いクリーム色の花をつけ、草姿のよく似た植物 (*Rhynchosinapis hispida* (Cav.) Heywood かもしれない) が日本に帰化しているためであると思いますが、この植物は非常にまれで私は神戸でしか見えていません。おそらく、キバナズシロモドキと同定された植物の大部分はハリゲナタネと思われる。

(大阪府箕面市・植村修二)

■ チャボウシノシッペイとウスゲオオアカバナ

●私の住んでいる大阪府大東市の帰化種を二点報告いたします。

1. チャボウシノシッペイ *Eremochloa ophiuroides* Hack.

飯盛山中の山田の畦で2m四方くらいの広さに生育していました。2001年9月22日のことです。それより前1998年10月に三重県一志郡白山町の四季の里公園で、芝生の代用として広場に植えてあるのを見ることがあります。「神奈川県植物誌2001」にも載っていました。図鑑では「沖縄植物野外活用図鑑第3巻：帰化植物」に載っています。東南アジア原産のイネ科の多年草で、背丈が低く、とてもやさしい手触りで、芝生のようにチクチクしないので、芝生の代わりにあちこちで植えられるようになると思います。

2. ウスゲオオアカバナ *Epilobium hirsutum* L.

1998年6月27日、三面コンクリート張りの川床に溜まった泥砂の上に2mくらいの背丈で、主茎から多くの枝を分けてたくさんのピンクの花を咲かせていました。今年は下流の遊水池の端の泥砂の上にも数十株が繁茂していました。ウスゲオオアカバナは地中海地方原産のアカバナ科の多年草です。学名からもわかると思いますが、福島県や佐渡などにまれにあるとされるオオアカバナはこれの変種です。おそらく園芸品として持ち込まれたものが逸出したのだと思います。種を播いてもよく育ちそうなのでこれから各地で殖えようと思います。日本ヴォーグ社「完璧版野草の写真図鑑」にグレート・ウィロウハー

ブという英名で載っています。これら2種を他の地域でご覧になられましたらお知らせください。

(大阪府大東市・田中光彦)

■ ヨコハママンネングサについて

●2002年4月27日に東京多摩市の住宅街舗道にて、花は咲いていませんでしたが、オカタイトゴメに似て、それよりも葉の長い植物に遭遇しました。同行していた帰化植物に詳しい方からヨコハママンネングサと教わり、未だ学名が不詳であるが、神奈川県植物誌2001に載っていると教わりました。翌28日に東京調布市にて、今度は花を付けたヨコハママンネングサとおぼしき個体に遭遇いたしました。その様子からメキシコマンネングサにそっくりでしたが、メキシコマンネングサの葉は長さ8~13(17)mm程で、ヨコハママンネングサは葉の長さ3~6mmと、違いは明らかなのですが、一瞥では葉の形がとても似ていますので、ヨコハママンネングサを頭に置いていないと、てっきりメキシコマンネングサだと思いついてしまいがちです。2日続けて出会うとは、どうも今までメキシコマンネングサと見て見過ごしていたのかも知れません。さて、このような経緯から神奈川県植物誌2001の検索を検討する内に次のような疑問がわいてきました。疑問というのは、検索表を順にたどって行くと、ヨコハママンネングサの含まれる項目で「花茎の葉は輪生する」とあり、私が見た2箇所個体のいずれも花茎(私が思っている花茎)の葉は互生して見えました。残念ながらヨコハママンネングサの図は同図鑑に有りませんでしたので、同じ項目グループのメキシコマンネングサの図と合わせて考察いたしました。次に原色帰化長田でのメキシコマンネングサを見てみると、「花をつけた枝では互生となり」とあります。それぞれのメキシコマンネングサの図を見ると、花は、「立ち上がった茎」の先端から「放射状に分岐した枝」を出し、その枝に更に「極短い柄」を持った花が多数付いているようです。ここで質問です、それぞれの図鑑にある「花茎」と「花をつけた枝」とは、「立ち上がった茎」、「放射状に分岐した枝」、「極短い柄」、どの部分に相当するのか迷ってしまいました。基本を勉強された方なら迷うことはないのかも知れませんが、どうかお教え下さい。

なお、ヨコハママンネングサと思われる植物は、互生、対生、3輪生、4輪生、更に1個がずれた3輪生、とさまざま見られます。花のすぐ下に有る葉は5輪生ですが、これは苞葉なのでしょう。

参考：平凡社の日本の野生植物での検索では、メキシコマンネングサの属する項目では「花茎の葉はふつう輪生する」とあります。帰化植物写真図鑑での解説では「花茎の葉は互生する」とあります。

(東京都練馬区・山口純一)

●私はオカタイトゴメに混同されている *Sedum* を5種、現在栽培観察を続けておりますが、種の同定は難航して

います。ヨコハママンネングサという植物についてですが、山口さんのメールから判断しますと、これは今はやりの屋上緑化によく使われる“モリムランネングサ”として市販されているものが逃げ出したものと思われる。岡山県や大阪府にすでに野生化しています。冬になると、陽のあたる所では葉がレンガ色に染まってくると思います。この点がメキシコマンネングサと違います。

“モリムランネングサ”の名前の出所は分かりませんが、私はヨーロッパ原産のロクジョウマンネングサ *Sedumsexangulare* L. に近い種類と考えています。ただ、山口さんが観察されたように葉が互生、対生、3輪生、4輪生となっていることが、6輪生というのが特徴であるロクジョウマンネングサの記載と一致しません。この仲間は非常によく似ており、観察または採集した時期や生育場所で草姿が大きく変化するので、間違っているかもしれません。(大阪府箕面市・植村修二)

●ここひと月ほど、相変わらずヨコハママンネングサ?を楽しんでいます。前にヨコハママンネングサと思われる植物は、互生、対生、3輪生、4輪生、更に1個がずれた3輪生、とさまざま見られます。と書きましたが、表現が紛らわしいので修正いたします。ヨコハママンネングサ?は、花茎の葉は3分の1螺旋互生です。普通の茎ではほぼ3輪生なのですが、この植物は余り几帳面ではなく、それぞれの葉の出る位置がやはり微妙にずれる物かなり見られます。結果として1枚の葉の位置がずれた3輪生や、極端な場合3分の1螺旋互生に見える物が多少見られます。更に4輪生と見られる部分も極希に見られます。葉の断面ですが、オカタイトゴメほどではないですが、若い葉は表側(軸側)がやや平らで、オカタイトゴメほど葉巾が広くないせい、或いは葉の表皮がしっかりしていない為か、成長と共に凸レンズ状に膨れて行き、平たい楕円形になるようです。(神奈川県植物誌でのオカタイトゴメの葉断面図は天地が逆に配図されています) 以下寸法を記します。

葉の長さ 6~7mm, 巾1.4~1.5mm,
厚さ0.7mm (成長した葉で)
萼片の長さ 3.5~4mm, 巾1~1.3mm
花卉の長さ 4.5~5mm, 巾1.5mm
雄しべの長さ 3mm

葉の長さ6mm前後で3輪生のマンネングサは、ここ1カ月程の間に、多摩市南大沢、調布市布田、神奈川県海老名市、静岡県熱海市網代で2株、と野外に出掛ける度に立て続けに遭遇し、ほぼ同じ物だと思われます。また、この間に同じく葉の長さ6mm以下の互生するキンソウ属でオカタイトゴメ以外の種類を2種、東京都中野区と奥多摩町でそれぞれ見ており、頭を抱えています。此の仲間は生の時にしっかりと各部を確認しないと、押しした後ではよく解りませんね。萼片の形状や寸法が、比較的類似種との差が出るのではと思っておりますが、如何でしょうか。(東京都練馬区・山口純一)

特報

会員だけに限定して「中国(中華人民共和国)雑草原色図鑑」本体価格22,000円+消費税を、消費税・送料込みで12,000円でお送りしていますが、残部がわずかあります。ご希望の方はお申込み下さい。

なお、この特別価格は書店を通じての注文は適用されませんので、必ず全国農村教育協会に会員番号記入の上、FAXまたは郵送で直接お申し込み下さい。なお、本書は限定版ですので売り切れの節はご容赦下さい。

● 全農教 日本帰化植物友の会事務局よりのお知らせとお願い

● [分布情報] について

日本帰化植物写真図鑑の各草種解説の最後に記載した[分布情報]の埼玉157, 静岡22, 三重417などの数字が何を示すのかという問い合わせが数件あり, それについて友の会通信のNo.1で解説しましたが, No.1の解説は誤りでした。深くお詫びいたします。各県の後に記した数字は次のとおりですのでここに訂正いたします。

[分布情報]の各県名の後の数字は旭川, 三重, 神戸の場合はそれぞれの本に記載順につけてある番号を示す。埼玉, 静岡の場合は本には記載順の番号はつけていないが, 編集者が記載順に追ってつけた番号。秋田, 徳島, 佐賀, 大分の場合は在来種と帰化種と一緒に記載してあるので, 編集者が帰化植物だけを拾い, 記載順につけた番号を示す。

● 友の会通信への投稿募集!

「友の会通信」は会員の皆様からの投稿によって成り立つ機関誌です。皆様のご協力なしには成功しません。多数の会員さんからの投稿をお待ちしています。

投稿の内容は以下のようなものです。

● 地域における帰化植物の発生状況

何時, どこでこんな帰化植物を発見した。今まで見なかった帰化植物が最近多くなったなどの情報をお寄せください。(できるだけ写真を添えてください。)

● 帰化植物の生物的特性に関する情報

帰化植物の形態的, 生態的な情報, 例えば今回の4頁のヌマツルギクの特性のような情報を書いて下さい。

● 名前, 利用, 害など植物文化的情報

名前の由来など名前に関する情報, 帰化植物の利用や, 産業, 環境に対する被害などの情報を書いて下さい。

● 他の情報源の紹介

各地域の帰化植物に関する情報誌の紹介, ○○帰化植物の会, ○○帰化植物同好会, ○○帰化植物観察会などの情報を教えて下さい。

● 帰化植物の同定や疑問点の質問

不明の帰化植物の同定依頼, 帰化植物に関する疑問や用語その他で分からないことの質問などをお寄せ下さい。なお同定依頼の場合は必ず写真とできるだけ全体の生の標本を送って下さい。

● その他

上記以外, 帰化植物に関する事なら, 観察会の記録・感想文, 帰化植物の解説に関する事, 採集ニュース, エッセイなどどんなことでも結構ですから, 写真や図のあるものは添付してお送り下さい。(但し, 写真や図は他人の著作権のあるものは使えません。)原稿の長, 短も問いませんから多くの会員の投稿をお待ちしております。

● 新しい帰化植物の写真をお持ちの方はお知らせ下さい。

次々と出現する帰化植物の情報を迅速に広報することが各方面から要望されています。

この要望に応えるために全農教では, 日本帰化植物写真図鑑の追補版を刊行する準備を進めております。つきましては会員の方で帰化植物写真図鑑に未掲載の帰化植物の写真をお持ちの方は写真をご提供していただきたいと思います。(写真はスライドまたは紙焼き, デジタル画像など) ご提供いただいた写真によって追補版を発行いたします。ご提供いただいた写真については使用料(全国農村教育協会規定による)をお支払いいたします。お持ちの会員さんがおられましたら, 取り敢えず草種名だけをご連絡下さい。あらためて借用願の書類をお送りいたします。多数の方の情報をお待ちしております。

● 事務局に頂いた情報誌

昨年中に下記の情報誌を事務局にいただきました。ここにあらためて厚くお礼申し上げます。

- 「旭川の帰化植物」第27報(2001年)
旭川帰化植物研究会
- 「宮崎県の帰化植物新目録」第21輯(1993年)
同第22輯(2001年) 荒木徳蔵
- 「四日市市南部の植物相」(予報)(2002年)
三重県環境保全事業団 加田勝敏

● 友の会会員の特典について

日本帰化植物友の会の会員の方には, 全国農村教育協会発行の図書については, 本体価格の1割引でお送りいたします。全国農村教育協会の図書でご希望のものがございましたら, FAXまたは郵送で注文して下さい。この場合必ず会員番号を記入して下さい。(会員番号は宛名シールの下に記入してあります。)

※なお, この特典は書店を通じての注文には適用されませんので, 必ず直接申し込んで下さい。(送料はかかりません。代金は請求書, 振替用紙を同封しますから, 現品到着後にお支払い下さい。)

昨年度の新刊にはコケの図鑑, 「校庭のコケ」「似た草80種の見分け方」など多くあります。詳細は図書目録をご覧ください。

全農教・日本帰化植物友の会事務局

〒110-0016 東京都台東区台東1-26-6
(植調会館) 全国農村教育協会内

TEL 03-3833-1821 FAX 03-3833-1665

<http://www.zennokyo.co.jp>

e-mail:kika@zennokyo.co.jp